

# フリースタイルスノーボーダーのリスクテイキング行動に関する研究 ～刺激欲求特性と楽観性との関連に着目して～

畑尻 有花 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)  
指導教員 林 綾子

キーワード: フリースタイルスノーボーダー, リスクテイキング行動, 刺激欲求特性, 楽観性

## 1. 序論

近年フリースタイルスノーボードが注目されるようになり、スノーボード人口が増えた。それに伴い、スキー場での傷害が増えている。Heinrich の法則によると、不安全行動を敢行し続けると、いずれは重大事故に至る可能性がある。このことから、個人がどのように不安全行動を敢行しているかを把握できれば傷害発生を減少できるのであると考えた。しかし、リスク行動を敢行、回避するかは個人特性によると上市ら(1998)は述べている。このことから、筆者はフリースタイルスノーボーダーがリスクテイキング行動を敢行する際、刺激欲求性、楽観性の個人特性が関係していると考えた。そこで、本研究ではフリースタイルスノーボーダーのリスクテイキング行動を調査し、刺激欲求特性、楽観性との関連を明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究方法

【調査対象者】2015年9月14日～16日に屋内スキー場の岐阜県スノーヴァ羽島に会場したフリースタイルスノーボーダー(男性49名、女性37名)計86名を対象とした。

【調査方法】森泉ら(2010)のリスク傾向質問紙PRQ(12項目)、古澤(1989)の刺激欲求性尺度SSS-AE(15項目)、坂本ら(2002)の改訂版楽観性尺度LOT-R(3項目)を参考に筆者が修正した33項目の質問用紙を使用した。また、対象者の個人属性を把握するために、年齢、性別、フリースタイルスノーボード歴、一番難易度の高い技、ケガの有無、ケガの原因を問う調査項目付加した。正規性が見られなかった1項目を削除し、計32項目を分析に用いた。すべての項目において信頼性と正規性が確認された。

## 3. 結果と考察

### 1) リスクテイキング行動について

フリースタイルスノーボーダーのリスクテイキング行動について1要因の分散分析を行った結果(表1)、有意な差が見られたため、多重比較を行った。状況的敢行性と安全性配慮がギャンブル志向性や確信的敢行性と比べ有意に高いことが明らかとなった。フリースタイルスノーボーダーはスノーボードの危険を知っているため、状況に応じてリスクを敢行したり、安全性配慮しながらリスク行動を敢行している人が多いと考えられる。

表1: リスクテイキング行動得点の分析結果(分散分析)

N=86	M	SD	F値
ギャンブル志向性	8.14	3.48	33.44****
状況的敢行性	10.66	2.8	
確信的敢行性	7.98	2.49	
安全性配慮	11.43	2.36	

\*\*\*\*  $p < .001$

### 2) リスクテイキング行動と刺激欲求特性の関係

刺激欲求尺度には、下位尺度として TAS, Dis, ES がある。TAS はスピードや危険を含むスポーツや活動に携わろうという欲求、Dis は抑制を解除させることへの欲求、ES は新しい体験や変わった経験をしてみようという欲求を示す。リスクテイキング行動と刺激欲求特性の関係を検討するため、Pearson の相関係数を用いた分析を行った(表2)。結果、ギャンブル志向性が高いと、刺激欲求特性の下位

尺度全てが高くなることが明らかとなった。また、確信的敢行性はESにのみ有意な正の関係がある事が明らかとなった。このことから、刺激欲求特性の高い人はより高度な技やスピード、日常生活や仕事からの解放、普段味わうことができない体験や経験などの欲求が高いため、結果的により高いリスクテイキング行動をとるという特性があるのであると考えられる。

表2: リスクテイキング行動と刺激欲求特性の相関係数

	TAS	Dis	ES
ギャンブル志向性	.260*	.305**	.306**
状況的敢行性	.199	-.003	.172
確信的敢行性	.182	-.155	.365**
安全性配慮	-.173	-.114	.092

\*  $p < .05$  \*\*  $p < .01$

### 3) リスクテイキング行動と楽観性の関係について

リスクテイキング行動と楽観性の関係を検討するため、Pearson の相関係数を用いた分析を行った結果、楽観性が高いと確信的敢行性も高くなることが明らかとなった( $r = .408, p < .01$ )。このことから楽観的な人は、自分には悪いことが起こらないだろうと思っており、少し難易度の高い技でも失敗しないだろうとリスクテイキング行動を敢行していることが考えられる。

## 4. まとめ

本研究の結果から、フリースタイルスノーボーダーは、より高度な技やトリックを求めているが、自分のレベルやその時の状況をふまえて、リスクを敢行するか、回避するかを決めていると考えられる。刺激欲求特性が高いスノーボーダーはハイリスク・ハイリターンへの傾向が強い。そのため、リスクテイキング行動を敢行しやすいと考えられる。このことから、スノーボーダーを満足させるためには、様々なレベルのキッカーやアイテムを取り入れ設置することが良いと考えられる。また、個人特性が確信的敢行性に影響を与えることが明らかとなったので、自己の個人特性を把握し、どのような行動傾向があるのかを理解しておくことが、怪我のリスクを低下させるのであり、また、スキー場は雪面や視界など、状況の悪い場面ではパークを閉鎖したり、こまめに整備したり、スタッフをパークに常駐させ、アドバイスや合図をするなどの対策をとることが効果的であると考えられる。これらの取り組みにより、今後よりフリースタイルスノーボーダーが満足でき、かつ安全に楽しいフリースタイルスノーボードが行えるように期待する。

## 参考文献

- 1) 上市秀雄、楠見孝(1998)パーソナリティ・認知・状況要因がリスクテイキング行動に及ぼす効果。心理学研究 69(2): 81-88.
- 2) 坂本信士、田中江里子(2002)改訂版楽観性尺度の日本語版の検討。健康心理学研究 15(1): 59-63.
- 3) 古澤照幸(1989)刺激欲求尺度・抽象表現項目版作成の試み。心理学研究 60(3): 180-184.
- 4) 森本真吾、白井伸之介(2011)リスクテイキング行動尺度の信頼性・妥当性の再検証。労働科学 87(6): 211-225.